地域福祉活動レポート「たかつハートリレー」第 37 回

やらねばならないことがあることが生きがいにつながる

「特定非営利活動法人　マイ Way」



　たかつハートリレー第 37 回で紹介するのは、津田山で障害者の就労支援と居場所づくりを行っている「特定非営利活動法人　マイ Way（以下「マイ Way」）です。
　まずは、マイ Way の若年性認知症支援コーディネーターの渡辺典子さん、管理者の坂本栄一さんからお話を伺いました。

JR 南武線津田山駅すぐ前に

　マイ Way は、JR 南武線津田山駅すぐ目の前の建物にあり、駅の目の前なのでとても便利で来やすい場所にあります。マイ Way は、この建物の 2 階と 3 階にあります。

津田山駅前にあるマイ Way
窓にロゴマークがあるのですぐにわかります。





　マイ Way は、「私も社会で活躍したい」をモットーに、障害者の就労支援のための団体です。障害者の方の自立したい、働きたいという思いを大事にし、それが少しでも実現できるように支援を行っています。

　また、マイ Way では、これまでに前例がない、さまざまな障害者の自立のための支援にチャレンジしています。これは当事者本人や家族からのニーズに応えたもので、既存の障害者の就労支援、自立支援の制度では、なかなかすべてのケースに対応することができないものに取り組んでいます。これを本人や家族の相談を受けながら、丁寧に取り組んでいるということでした。特に現在取り組んでいる、若年性認知症支援コーディネーターの活動もその 1 つということです。

　マイ Way は、2013 年 1 月に就労移行支援事業、就労継続支援 B 型として活動が始まりました。その活動のなかで、若年性認知症の方が働く場を求めているということで若年性認知症家族会から相談があって、対象を広げたということです。その他にも川崎市からの委託事業も受けて相談支援センターや若年性認知症支援コーディネーターなどを行い、現在に至るということです。
　マイ Way の代表者は、（株）日本ヴォーグ社の代表でもあるのですが、代表者が障害者の支援を行いたいという強い思いから、(株)日本ヴォーグ社の事業であるハンドメイドを活用した障害者の自立支援として、マイ Way が発足しました。
　現在のマイ Way の登録者は 35 名で、このうち若年性認知症の方は、7 名の方が登録されているということでした。

マイ Way での利用者さんのお仕事

　利用者さんはマイ Way に通所し、お仕事として軽作業にあたります。1 日の流れは、9 時 30 分に朝礼ではじまり、作業時間 1 時間と休憩の 10 分の無理のないサイクルで行われます。そして 16 時で終業となります。
　お仕事は、ダイレクトメール封入作業、チラシ折り、キーホルダー詰などさまざまな軽作業があります。取材に訪れた日は、ネット販売の際に景品になる商品のラベル貼りでした。
　お仕事の依頼は、これまでのお付き合いのある会社等から受託しているそうです。

作業の様子。今回は商品のラベル貼りです。すでにラベル貼りが終わった商品が積んでありました。





自分たちで仕事をつくり出す事業、ハンドメイド部

ハンドメイド部という事業があるのですが、これは利用者のみなさんで手づくりのアクセサリーやチャーム、マスクなどを販売する取組です。これが始まったきっかけは、コロナ禍が始まったときに仕事が停滞してできない時期が続きました。このため、これまでのように仕事が来るのを待つだけでなく、自分たちでつくって発信しようということから、手づくり品をつくってネットで販売することから始まったということです。また、高津区内の農家の方からお声がけをいただき、利用者さんとサツマイモ堀にいったのですが、その際にイモのツルをたくさんいただいて、それを使ってクリスマスリースをつくったら、思いのほか素敵なものができました。このクリスマスツリーも販売しました。





ハンドメイド部でつくった手づくり品

コロナ禍前までは、サークル活動のような形で利用者さんのなかで好きな人がやっていましたが、今では販売するものとして取り組んでいるということです。

就労支援、企業とのマッチング、そのあとのフォロー

就労支援のなかに、就職先の企業とのマッチングというのがあります。求人についてはハローワークと連携したり、川崎市で障害者雇用の推進を行っていますが、それに登録している企業を中心に回ったりしているということです。そういうところからの情報を収集して、対象者と企業とのマッチングを行っているということでした。

就労移行支援については、定着支援サービスという事業が立ち上がって、そこを希望する人に対して行っています。具体的な内容については、就職した企業に我々が足を運んで、本人やその企業と面談します。そのなかで日々の勤務で課題があれば把握し、必要があれば介入などを行います。企業と就労者の橋渡し的な役割であり、長期安定就労になるように支援しています。（現在、就労移行支援については、実施していません）

若年性認知症を広く知ってもらうことが大事

若年性認知症の方の支援について概要や工夫について、お話を伺いました。 若年性認知症の方とその他の障害の方との違いですが、まずは、通常の就労支援としては、自立して仕事して生活をしたいという意向がある人を、職業訓練として支援するものです。一方で、若年性認知症の方は、認知症になる前までは普通に仕事をしていてそれが認知症によりこれまでの仕事が難しくなった人がほとんどです。このため、できることを続けたい、社会貢献したいという思いで来ている人が多くいるのです。

マイ Way では、このような思いを大事にして支援したいと思っています。 ただ、若年性認知症の方は、今でこそ就労支援 B 型で対応できるのですが、10 年前くらいまではなかなか理解してもらえず、デイサービスのような介護保険の範囲で支援するということが中心でした。しかし、若年性認知症の方は、高齢者の認知症の人と一緒にデイサービスを利用するということが合わない。まだまだ体力もあって働けるので、就労という形が良いと思っています。若年で発症されて高齢者のデイサービスを利用されるには、ミスマッチな方がいます。もちろん、人によってはデイサービスなどを利用することも良いと思います。

マイ Way は、就労と介護保険の利用の中間的な位置づけだと思う。ということでした。 お話を伺って、改めてそれぞれの障害にあったきめ細かい支援が必要であるということがわかりました。

マイ Way のチャレンジ

マイ Way では、他の施設でやっていないことにチャレンジして事業にすることが多いということです。そのチャレンジした事業もマイ Way 自体が思いついたものというよりも、当事者やその家族から相談されたものが多いということです。また、そのような事業については、マイ Way だけで取り組めば良いのではなく、行政をはじめ世の中に認知してもらわないといけない。

このため取り組むだけでなく、積極的な発信も行っているということでした。また、外部への発信だけでなく内部の理解や共有も重要で、「若年性認知症」を特別にするのではなく、「若年性認知症」も障害の１つである。このため、他の障害の方と一緒に関われるということを、共有していく必要がある、ということでした。

当事者や家族のニーズから生まれた事業について

そもそも若年性認知症の事業が、当事者やその家族から相談されたものを実現したものです。他には、川崎市からの委託で、マイ Way の経験や知見を活かして、生活困窮者や生活保護受給者の就労の場として、市内の介護事業所等に繋いでいくという事業を行っていました。

合わせて、就労先に対して、生活困窮者や生活保護受給者の就労の場が必要であることも知ってもらうように働きかけ、当事者が、自分で仕事を見つけて生活保護から脱却していく支援にも取り組みました。

このように、既存の制度では対応できない課題について、いち早く対応することが重要だと感じました。

アットホームな雰囲気で働いてもらうことを大事に

マイ Way のスタッフが大事にしていることは、やはり利用者さんが毎日楽しく働くということです。このため、アットホームな雰囲気づくりを心掛けているということでした。そのうえで、スタッフが意識していることは、いつも利用者目線でいること。マイ Way に来て良かったなと思ってもらえるように、みなさんが元気に毎日過ごしてもらいたいと思っているということでした。また、当事者の方も働いているので、スタッフも利用者も分け隔てなく一緒にがんばっていこうという雰囲気にしているということです。

作業風景をみさせていただきましたが、スタッフの言われるとおり、音楽もながれアットホームな雰囲気の作業場でした。

お仕事は、わきあいあいとアットホームな雰囲気で行われています。





就労支援以上に居場所となっている。コロナ禍でも開所し続けた。

マイ Way は、就労支援以上に居場所となっていると感じました。作業場全体の雰囲気が明るく、利用者さんたちはみんな楽しそうでした。若年性認知症の方に限って言うと、マイ Way のような場はなかなかないので、行ける場所がある、悩みを言える場、共有する場、仲間をつくれる場をつくれていることが良かったんだと感じました。利用者さんからも生活のはりにもなるし、うれしいと言われているということでした。

マイ Way は、利用者のみなさんの居場所になっている。コロナ禍でも閉鎖せずに感染を気をつけながら開所し続けた。居場所を閉じてしまうと、障害をお持ちの方は、ずっと家に閉じこもってしまうようになる。そうならないように、開け続けることを大事にしました。

利用者さんの声
「（やら）ねばならない」があることが大事

若年性認知症の利用者さんから、お話を伺いました。

私は定年退職で仕事をやめたが、家にずっと閉じこもっていると刺激がないので、さらに悪くなってしまうと感じました。私はテレビを観ることが好きなのでずっと観ていることができるが、それだと良くないと感じていました。このため、心配した娘がマイ Way を紹介してくれました。

自宅からマイ Way まで電車で 20 分くらいかかるのですが、通勤するだけでも刺激があって良いと思います。たとえば、電車に乗ることでも周りに気を遣ったり、注意を払ったりします。そのような刺激が大事だと思います。ずっと家にいると何も刺激がないので、注意力などが落ちてくる。通うだけでも症状を悪くさせないと思います。また、外に出るには、それなりにおしゃれもしないといけないし、そういうのが必要だと感じています。

また、マイ Way に来ると、自分がやらないといけないことがあります。「(やら）ねばならない」ことがあることが重要だと感じています。さすがに一般的な仕事のようにノルマがあるわけではないが、スタッフからのプレッシャーは感じます（笑）。そのようなプレッシャーがあることも大事だと思うのです。人間は、「ねばならない」ということがないと、ダメになってしまいますね。

さらに、マイ Way に来て周りの人とコミュニケーションをとることも大事で、お話ししているなかでこの人は何を考えているのかな、と考えることも必要だと思うのです。そして、同じような症状を持つ人と知り合うことができる。同じ悩みを持つ仲間と、悩みを共有できることも精神的な安定につながります。ひとりだとこの仕事は続かなかったと思う。同じ症状を持つ仲間がいると、ほっとします。

別に給料がほしいわけではなく、今の自分ができることで社会に貢献したいという思いがある。前に長年勤めていた会社の趣旨で、まわりに還元されるような仕事に取り組むということがあって、賛同していた。今は定年退職したが、マイ Way では今でも同じような思いで仕事ができることが良い。これが心の支えになる。そして帰ってからのビールがうまい（笑）

人間は、「ねばならない」があることが大事だと思います。「やってもよいよ」だけでは、なかなかやらないですよね。とはいえ、他人から「ねばならない」と言われて腑に落ちないでやるのはだめで、自分で納得してうえで、「ねばならない」をつくることが大事だと思います。それが達成感を感じることにつながるのです。

利用者さんがおっしゃっているように、ゆるい形での「ねばならない」があることが大事であり、それが居場所につながると感じました。

作業場の様子を取材

今やっている作業は、大手ネットショッピング会社に出品している企業さんの、商品のセット組みや、商品のバーコードのシール貼り、商品に付けるおまけの袋入れを行う作業です。

この企業さんからは、継続してお仕事を頂いています。この業務を受注したきっかけは、この企業の方が、マイ Way に飛び込みで来てくれて依頼されました。この企業の社長さんは、福祉系で働いたご経験があり、一緒に相談しながら、どんなことができそうかを考えています。

その企業からは、急ぎの仕事が舞い込むこともありますが、そういう時は、みんなで力を合わせて対応しています。メンバーのみなさんは、もともと企業にお勤めしていた方が多いので、納期が決まっている作業は特に、団結して取り組まれています。

また、メンバーみんなで手づくり品をつくって、高津区のイベント、たとえば JR 溝の口駅自由通路で開催されている KAWASAKI 産 SUN フェスティバルで販売したりしています。先日のフェスティバルでは、あっという間に手づくり品が売れてしまいました。「はたらく」とは単に仕事をするだけでなく、誰かの役に立てることなども大切にしています。

いつもみなさんと一緒にお仕事ができること、喜びや達成感を共感できることがうれしいと感じています。

KAWASAKI 産 SUN フェスティバルでの販売の様子。



マイ Way の皆さん



取材を終えて

皆さんテキパキと働いておられ、休み時間には笑い声の響く明るい雰囲気の作業スペースでした。

利用者さん自身が自分のやるべきことを見出だせる居場所に通えることで、「生きる力」が輝いていると思いました。

困っている方の声に応えることで支援を展開されてきたそうで、利用者さん一人一人の性質や生活面にも寄り添う姿勢が丁寧に感じられました。

（高津せせらぎプレーパークやレンジャー　鈴木）

「NPO 法人マイ Way」のことをもっと知りたい

- 場所：川崎市高津区下作延 6 丁目 4 番地 3 号エムズヒル 2 F・3 F
- 利用日：月～金曜日 9 時 30 分～16 時（祝日・年末年始除く）
- 定員：20 名
- 種別：就労継続支援 B 型事業
- 問合せ：NPO 法人マイ Way
  電話 044(833)5886
  （9 時～17 時（土日祝・年末年始 除く））
- ホームページ：https://my-way.jp/

取材先
「特定非営利活動法人　マイ Way」
坂本 栄一さん、
渡辺 典子さん

取材者



高津せせらぎプレーパークやレンジャー会長
鈴木 暁子さん
多摩川河川敷で月一回、高津せせらぎプレーパークを開催し、自由にのびのび遊べる子どもの遊び場、安心して過ごせる居場所をつくっています。

ほかの団体の記事はこちらから♪

たかつハートリレー

福祉活動について現地取材を行い、写真やインタビュー記事を掲載しています。取材された団体が次の団体を取材するリレー形式を取る事で、取材の場が区民の交流の機会にもつながることをめざします。

発　行：令和５年３月
問合せ：高津区役所地域みまもり支援センター
　　地域ケア推進課
電　話：０４４－８６１－３３１３
ＦＡＸ：０４４－８６１－３３０７
E-mail：67keasui@city.kawasaki.jp